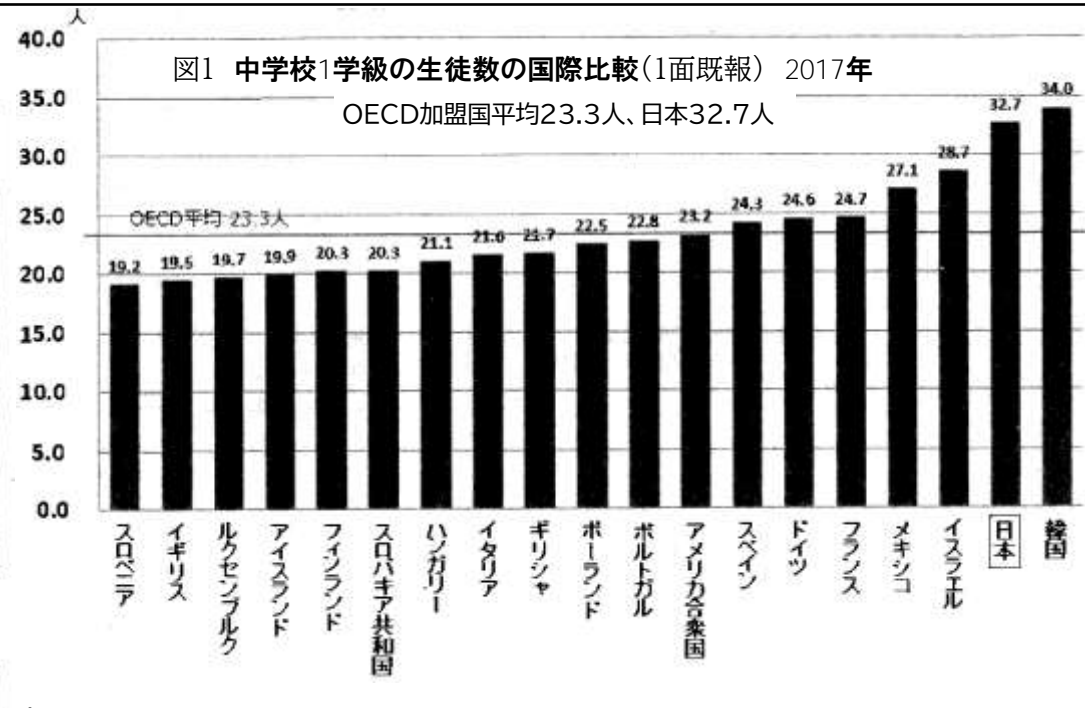


表 「審議会答申」通りに統廃合したら
35人以上学級が大幅増加(1面既報)

小学校		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	35人以上 学級数
石 動	児童数	60	56	55	64	53	66	354	0
	学級1	30	28	28	32	27	33		
	学級2	30	28	27	32	26	33		
東 部	児童数	14	11	20	17	18	8	88	0
	学級1	14	11	20	17	18	8		
	学級2								
統合校	児童数	74	67	75	81	71	74	442	4
	学級1	25	34	25	27	36	37		
	学級2	25	33	25	27	35	37		
	学級3	24		25	27				

小学校		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	35人以上 学級数
蟹 谷	児童数	29	28	31	32	32	28	180	0
	学級1	29	28	31	32	32	28		
	学級2								
津 沢	児童数	30	52	41	38	48	43	252	0
	学級1	30	26	21	19	24	22		
	学級2		26	20	19	24	21		
統合校	児童数	59	80	72	70	80	71	432	6
	学級1	30	27	24	35	40	36		
	学級2	29	27	24	35	40	35		
	学級3		26	24					

中学校		1年	2年	3年	合計	35人以上 学級数
蟹 谷	生徒数	30	26	37	93	1
	学級1	30	26	37		
	学級2					
津 沢	生徒数	37	44	40	121	1
	学級1	37	22	40		
	学級2		22			
統合校	生徒数	67	70	77	214	4
	学級1	34	35	39		
	学級2	33	35	38		

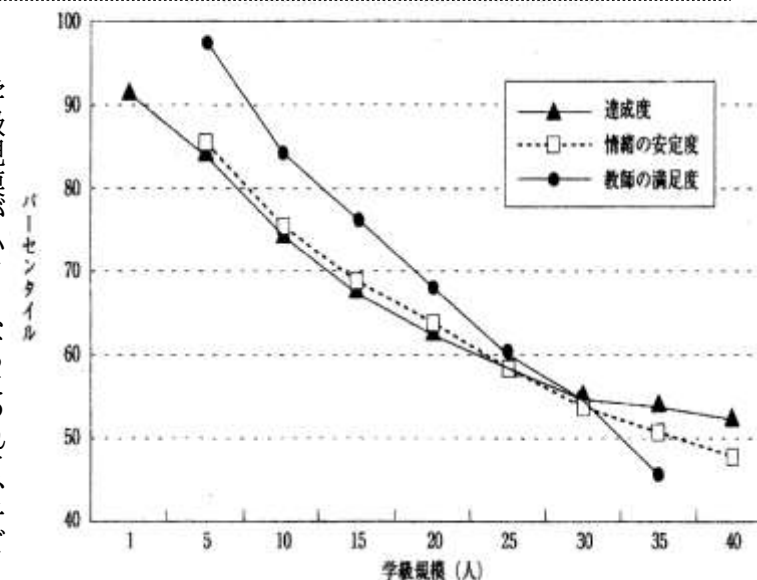


小さな学校ほど学校に愛着 米連邦教育局の実態調査

アメリカの「コールマン報告」(1966年)では米連邦教育局による実態調査に基づいて、小さな学校ほど子どもの学校への愛着や帰属意識が強くなる、学習態度も能動的になることが実証されたと述べている。



グラス・スミス曲線(アメリカのクラスサイズ研究) (学級規模と達成度、情意面、教師の満足度)



学級規模が小さくなるにつれて、子どもたちの学習効果が大になり、この傾向が顕著に見られるのは一学級当たり20人から15人以下である。小規模学級の方が、学習活動への参加度が高く、明るくのびのびしている、生き生きとして授業が終わるまで活動的である。
大きな学校・大きな集団の方が、社会性が育つと思われがちだが、大きな集団の中で子どもたちは、逆に無関心を生みだしてしまう結果が見られた。

授業への集中度が高い

日本・文部省初等中等教育局の研究

文部省初等中等教育局の研究(1980年)でも、小規模校の方が①授業への集中度が高い、②個別指導の機会が多い、③学習成果が高い、④学級の連帯感が強いなどが実証されている。

日本の教育は過度に競争的

国連子どもの権利委員会の勧告

切磋琢磨について、中村弘之氏は「自然の芽生えた子どもたちの競争意識は行動にエネルギーを与え、能動的にさせる。互いの違いを認識することで子どもたちは助け合う喜びや相手を思いやる快感を経験していく。しかし一方、大人から持ち込まれる「切磋琢磨」は過度な競争主義しかもたらさない」と述べた。
国連子どもの権利委員会による日本政府に対する勧告は「過度に競争主義的な環境による否定的な結果を避けることを目的として、学校制度及び学力に関する仕組みを再検討すること」としている。